



第4回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

標記の賞につき、会員の皆さまよりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2010年度は学会賞・推進賞として下記3件の授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

◆第4回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

〔賞の概要〕

『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。

受賞	<p>研谷 紀夫 氏（東京大学大学院情報学環）</p> <p>『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』（勉誠出版,2009）の業績に対して</p>
受賞理由	<p>本書は、2006年に東京大学大学院学際情報学府に提出された同題学位論文を基とし、デジタルアーカイブの構築を含んで文化資源をデジタル化して公開活用する総体をDigital Cultural Heritageと定義づけ、これまでの背景を歴史的に概述の上、基本モデルの構築から実証実験を踏まえたモデル検証と今後の展望へと展開している。</p> <p>著者はDigital Cultural Heritageを現物資料と対立するものではなく、相互補完的な存在と規定し、いくつかの実証実験の成果を試行的デジタルアーカイブにまとめ上げている。実験の素材となったデータベースは必ずしも現用されるものにまで成長しているわけではないが、その過程での考察、とりわけメタデータ設計に関わる検討は、MLAいずれにおいても参照する価値がある。今後のアート・ドキュメンテーションの実践に広く資する基本文献となる著作である。</p>

◆第4回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

〔賞の概要〕

アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	<p>川島良子氏（発行）および椎名節氏、光田由里氏、相馬理奈子氏（以上編集）、大石一義氏（造本）</p> <p>『村松画廊：1942-2009』（村松画廊，2009）の制作に対して</p>
受賞理由	<p>戦後の日本美術の動向を考えるうえで、発表の場としての画廊の果たしてきた役割は大きい。村松画廊は、東京の画廊街の中心である銀座にあって、1946年に開廊以来、多く作家たちの展覧会を開催、日本の画廊史のなかでも重要なアートシーンを形成してきたといえる。2009年12月、閉廊にあたり、蓄積してきた展覧会資料を収載したのが本書である。67年間の展覧会記録を、作品写真、展覧会データ、展評を中心に編集・刊行したことは、アート・ドキュメンテーションの活動として、十分に価値あるものである。本書は、一般流通を対象としていない、いわば灰色文献だが、400頁近い大部な画廊の記録集はほとんど例がなく、発行者、編集者、デザイナーのすぐれた協同作業としても評価できる内容をもっている。</p> <p>なお、村松画廊の展覧会資料は、2009年末に一括して東京文化財研究所に寄贈された。</p>
受賞	<p>金井 杜道 氏（写真家、前京都国立博物館専門職員）</p> <p>長年にわたる文化財を対象とした学術的資料写真の撮影の業績に対して</p>
受賞理由	<p>金井杜道氏は、奈良・飛鳥園の小川光三に師事した後、京都国立博物館の写真担当の技官に採用され、30年以上にわたり学術資料としての文化財写真の撮影に従事した。その業績である写真の多くは同館を主とした博物館、美術館の展覧会カタログに反映されている。抑制された光源の制御によって撮影時点の文化財が持つ視覚的情報を過不足なく捉える氏の写真は、実見の機会が少ない文化財自体を再現する学界共有の資料として、多くの研究者から厚い信頼を得ている。近年、公職を退いてからも、『尼門跡寺院の世界』『国宝阿修羅展』（いずれも2009年）などの展覧会展出作品の撮影に取り組むとともに、著述や講演などを通じて、文化財写真の意義に関する発言も続けている。</p> <p>近現代における美術史研究の基盤である写真の撮影が評価される機会は少ない。氏の長年にわたる博物館の現場での実践はその重要性を体現するものであり、アート・ドキュメンテーション推進賞にふさわしい。</p>

※第5回 野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞の推薦募集については、『アート・ドキュメンテーション通信』および学会のウェブサイトにて告知いたします。会員のみならずには、多くの推薦をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：アート・ドキュメンテーション学会事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学短期大学部川原研究室内
 電話・FAX:06-6721-3135 E-mail:LDT02307@nifty.ne.jp